

児童の自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価が 自尊感情に与える影響

中山 奈央・田中 真理
東北大学大学院教育学研究科

本研究は、小学校高学年における児童の自己認識を自身が思う自己評価、他者に映る自己評価（自身に対する認知的評価）、自尊感情（自身に対する感情的評価）の3つに分けて捉え、(1) これら三つの発達的变化と (2) 自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価が自尊感情に与える影響を明らかにすることを目的とした。調査では、Harter(1985)のSPPCを参考に作成されたJ-SPPC(Tanaka et al,2006)を使用した。その結果、自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価の各領域には発達的变化が見られなかったものの自尊感情では4年生と比較し、6年生で低下が見られた。自尊感情に対する影響は、自身が思う自己評価の容貌で最も高く、次いで他者に映る自己評価の社会性、振る舞い、学業が順に高かった。

キーワード：児童期後期 自身が思う自己評価 他者に映る自己評価 自尊感情

問題と目的

児童期後期（小学校4年生～6年生）は、身体的にも心理的にも大きな変化がおとずれ。齋藤（2004）は、この時期の児童の身体発育、とりわけ性的成熟は自分にとって違和感を持って感じ取られる経験であるため、自分の体に注目が向くとともに自分自身についても関心が向けられるようになる」と述べている。また、認知的な発達では、具体的操作期から形式的操作期に入り、具体物がなくてもある程度の論理的推論が可能となったり、物事に対して客観的な判断が出来るようになる。こうした認知発達に伴い、外山ら（2000）は、小学校高学年の児童では、社会的比較が可能となり、客観的に自己を捉えられるようになることを指摘している。また、この時期、自己に対する認識は、知覚的・外面的なものから内面的なものへと広がりを見せるようになる（柏木、1983）。こうしたことから、児童期後期は自己認識の発達過程において重要な時期といえる。その他、後に訪れる青年期では、それまでの自身に対する認識をより複雑に分化させる一方で、それらを統合し、自我の同一性を確立させなければならず、児童期後期はその準備段階としても位置づけられる。眞榮城（2005）は、自己を統合できることが、快適な社会生活を営む上で重要な要因であると指摘している。現代は、「うつ」の時代」とも言われ（松本,2005）、成人だけでなく、うつの子どもへの支援のあり方を検討することが急務の課題である。村田ら(1991)は、日本の子どもたちに見られる抑うつ状態の背景に、特徴的な自己に対する価値評価基準があるとし、自己認識のあり方を検討することの必要性を指摘している。こうしたことから、

本研究は、アイデンティティの形成に向かい、自己の発達において重要な意味を持つと考えられる児童期後期を対象に彼らの自己認識のありようを明らかにすることを目的とした。

児童の自己認識を明らかにするにあたっては、Harter (1985) の子どもの自己認知尺度 (以下、SPPC) を用いた研究がある。Harter(1985)は、子どもの自己認識を自己評価 (Specific Domains) と自尊感情 (global self-worth) に分けて捉えている。自己評価は、“学校の勉強ができる”や“とても行儀がよい”などの項目からなるもので、自身の能力や適性に対する評価といえる。Harter (1985) は、因子分析の結果より 8 歳以上の自己評価は学業 (scholastic competence)、運動 (athletic competence)、容貌 (physical appearance)、社会性 (social acceptance)、振る舞い (behavioral conduct) の 5 つの特定領域から捉えられることを明らかにしている。これらに加え、SPPC には“人間として自分自身に満足している”や“自分のような子どもが好きだ”などの項目からなる全体的自己感 (global self-worth) が置かれている。これらは、自己評価と独立して存在し、全体的な自己の価値観を直接的に捉えることができるもので自尊感情に相当すると考えられる。

これまで、自己評価と自尊感情は、自己の評価的側面として、ほとんど区別することなく用いられてきた (榎本, 1998)。しかしながら、自己評価は、“勉強がよくできる”や“正しい行いをしていない”というような自身の能力や適性に対する認知的評価であり、また、自尊感情は、“自分のことが好きだ”というような自身に対する感情的評価であって、両者は互いに異なった側面に対する自身への価値付けであることが考えられる。その際、児童の精神的健康において重要であるのは“自分自身に満足している”や“自分は価値のある人間である”など、自分自身の存在を受け入れられることである。このことは、村田ら (1991) において、自尊感情と抑うつとの間に最も高い相関が認められたことからとも言えるであろう。

以上より、本研究は、自己評価と自尊感情のあり方が児童の心理状況に異なる意味を持つという立場から、これらを分けて捉えることを重要と考え、上記の SPPC を基に作成された日本語版子どもの自己認識尺度 (Tanaka et al, 2006) を用いることとした。このことは、不登校や抑うつの児童、また、これらを併発しやすい発達障害の子どもたちが抱える心理的問題の背景にある自己認識のあり方を理解し、それに応じた有効な支援を考える際の重要な視点になるものとも思われる。

さらに、本研究は、精神的健康において重要と考える自尊感情の決定要因を明らかにすることを第二の目的とした。これには、以下の 2 つが考えられる。1 つは、自身の能力や適性に対し肯定的な自己評価を行うことである。つまり、自身に対する自己評価のあり方が自尊感情に影響することが考えられる。このことは、自己評価と自尊感情との間に相関のあることを指摘した村田ら (1991) や自己評価が自尊感情に与える影響を検討した眞榮城 (2000) の結果からも想定される。そして、もう 1 つは、榎本 (1998) の紹介する Cooley, C. H. が、“自尊感情を抱かせるのは、他者の目に自分の姿がどのように映っているかにつ

いての想像、その自分の姿を他者がどのように評価しているかについての想像である”と述べたように、肯定的な他者に映る自己評価を持つことである。すなわち、“学校の勉強がよくなる子だと思われている”というような他者から見た自身に対する認知的評価によって自尊感情の形成されることが考えられる。こうしたことから、本研究は、自己評価及び他者に映る自己評価を自尊感情の決定要因と仮定し、それらが与える影響を検討することを目的とした。その際、これまで述べてきた自己評価は、他者に映る自己評価に対応させ、便宜上、自身が思う自己評価と表記する。以後、自身が思う自己評価とは、児童が自身のことをどのように捉えているかについての自身に対する認識を指し、他者に映る自己評価とは、他者が自分のことをどのように捉えているかについての自身に対する認識を指す。

以上、本研究では、以下の2点を明らかにすることとした。

- (1) 児童の自身が思う自己評価、他者に映る自己評価（自身に対する認知的評価）及び自尊感情（自身に対する感情的評価）の発達的变化を検討する
- (2) 児童の自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価が自尊感情に与える影響を検討する

方法

1. 対象児

通常学級に在籍する小学校4年生から6年生の児童212名（4年生78名；5年生76名；6年生58名）。

2. 調査期間

2005年8月31日～2005年9月1日

3. 調査内容

(1) 質問紙

①自身が思う自己評価尺度

Harter (1985) の SPPC を参考に Tanaka et al (2006) が作成した日本版子どもの自己認識尺度（以下、J-SPPC）のうち、学業、運動、容貌、社会性、振る舞いの5領域20項目を使用（APPENDIX 資料1参照）。

②他者に映る自己評価尺度

J-SPPC(Tanaka et al,2006)の5領域（学業・運動・容貌・社会性・振る舞い）から容貌を除いた4領域15項目について、母親が自分に対してどのような評価を行っているかという回答を求めた。各項目は、“お母さんは…な子だと思っている”という形式に改め、それに合うように各項目及び回答の表現を一部変更した（APPENDIX 資料2参照）。

③自尊感情尺度

J-SPPC(Tanaka et al,2006)のうち、全体的自己感の6項目を使用(APPENDIX 資料1参照)。

(2) 回答方法

Harter(1985)の用いた回答法を参考にし、2段階からなる4件法によって回答を得た(最初に左・右に書かれた“否定”・“肯定”の項目から選択(回答欄に○を記入)、ついで「すこしそう思う」、「とてもそう思う」から選択する(同様に回答欄に○を記入)という、二択の繰り返しによる方法である)。各項目について、“肯定”の内容に「とてもそう思う」とする回答を4点、“否定”の内容に「とてもそう思う」とする回答を1点とし、“肯定”・“否定”それぞれに対し、「すこしそう思う」とする回答を3点・2点とする形で得点化した。

(3) 調査の手続き

各学年の学級において、質問紙を一斉配布し、担任教師が回答に関する説明を充分に行った後、一斉に実施された。4・5年生においては、子どもの理解を助けるため、各質問項目を担任教師が読み上げ、適宜、語彙の意味などの補足説明を行った。6年生は、各自で回答し、質問がある場合は挙手し、適宜、担任教師が説明に回った。

4. 分析手続き

対象児212名のうち有効回答が得られた児童を分析の対象とした。各尺度における回答者数はTable1に示すとおりである。目的(1)の自身が思う自己評価、他者に映る自己評価の各領域及び自尊感情の発達の変化を検討するにあたっては、一元配置の分散分析(水準:4年生・5年生・6年生)を行った。また、目的(2)の自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価の各領域が自尊感情に与える影響を検討するにあたっては、自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価を独立変数、また、自尊感情を従属変数とした重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。統計解析には、SPSS Ver. 11.5を用いた。

Table1 各尺度における有効回答者数

		4年生	5年生	6年生	合計
目的 (1)	自身が思う自己評価	74	72	53	199
	他者に映る自己評価	77	74	56	207
	自尊感情	77	75	57	209
目的 (2)	自身が思う自己評価・ 他者に映る自己評価・ 自尊感情	73	72	53	169

(人)

結果と考察

(1) 自身が思う自己評価/他者に映る自己評価/自尊感情の発達的变化

自身が思う自己評価、他者に映る自己評価の各領域及び自尊感情の発達的变化を捉えるために、一元配置の分散分析(水準;4年生・5年生・6年生)を行った。各学年における自身が思う自己評価、他者に映る自己評価及び自尊感情の得点は Table2・Table3・Table4 に示すとおりである。

結果から、自身が思う自己評価では、学業のみに有意な差が認められた($F(2,196)=3.37$, $p<.05$)。しかしながら、多重比較(Tukey法)の結果、各水準間に有意な差は見られず、小学校高学年の学年間において、いずれの領域における自身が思う自己評価にも差のないことが明らかとなった。SPPCを用い、小学校4年生から中学校3年生の児童を対象にした堤ら(1990)の研究では、運動を除く全領域において、小学生と中学生の間に有意な差が認められ、自身が思う自己評価の低下は中学生で見られることが指摘されている。また、眞榮城(2000)においても学業、容貌、社会性の領域で同様の結果が得られている。このことから、自身が思う自己評価は小学校の間では大きな変動がなく、中学生に移行する段階において低下することが推測された。

また、他者に映る自己評価でも全領域に有意な差は認められず、小学校高学年の間では、いずれの領域における他者に映る自己評価にも変化のないことが示された。一方、自尊感情では有意な差が見られ($F(2,206)=3.31$, $p<.05$)、多重比較の結果、6年生が4年生と比較して、低い自尊感情を形成していることが明らかとなった。

以上の結果、児童期後期では、自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価(自身に対する認知的評価)に変化は見られないものの、自尊感情(自身に対する感情的評価)では、4年生と比較し、6年生で低下の見られることが示された。このことは、この時期、児童の自身に対する評価的認識が認知的側面と感情的側面で分化していることを示しており、両者を分けて検討することの必要性を実証的に示している。こうした分化は、後に、自己認識を統合していく青年期の前段階として必要な過程であることが示唆される。自己評価(自身が思う自己評価/他者に映る自己評価)と自尊感情を分けて捉える時、前者は自身のある特定領域に対する評価であるのに対し、後者は自身を全体的に統合した評価である。齋藤(2004)は、この時期の児童が「子どもでも大人でもない」境界人であると述べている。境界人とは、身体の発育をひとつの契機として「子どもであること」を自ら放棄し、親からも子ども扱いをされなくなるが、大人の地位を獲得するまでは未だ至っていない状態をいう。自身が何者であるかわからないといった状況の中では、自己全体を統合してまとめあげることは難しく、そうした混乱や不安が自尊感情の低下につながるということが考えられた。また、この時期の児童が他者に映る自己への意識を高めることも自尊感情の低下の背景にあるとも思われる。柏木(1983)は自身が思う自己評価と他者に映る自己評価との

間にズレを感じる事が、自身に対する不満や批判を生むと指摘している。こうした自身に対する不満や批判の中で自身を上手く統合できないことが自尊感情の低下につながることも考えられる。

Table2 各学年における自身が思う自己評価の得点

	N	学業	運動	容貌	社会性	振る舞い
4年生	74	2.48 (0.59)	2.08 (0.60)	2.52 (0.60)	3.13 (0.70)	2.43 (0.55)
5年生	72	2.48 (0.51)	1.94 (0.63)	2.44 (0.74)	3.19 (0.70)	2.44 (0.59)
6年生	53	2.24 (0.63)	1.86 (0.63)	2.41 (0.67)	3.17 (0.69)	2.27 (0.55)

()内は標準偏差

Table3 各学年における他者に映る自己評価の得点

	N	学業	運動	社会性	振る舞い
4年生	77	2.37 (0.60)	2.29 (0.67)	3.13 (0.68)	2.37 (0.64)
5年生	74	2.47 (0.57)	2.28 (0.61)	3.16 (0.77)	2.32 (0.64)
6年生	56	2.27 (0.61)	2.12 (0.70)	3.20 (0.74)	2.39 (0.64)

()内は標準偏差

Table4 各学年における自尊感情の得点

	N	自尊感情
4年生	77	2.81 (0.61)
5年生	75	2.65 (0.62)
6年生	57	2.53 (0.65)

()内は標準偏差

(2) 自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価が自尊感情に与える影響

自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価に関して、それらの各領域が自尊感情に与える影響を検討するために、自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価を独立変数、自尊感情を従属変数とした重回帰分析(ステップワイズ法)を行った。その結果、重回帰式は有意であり($F(4,164)=26.48, p<.001, R=.63$)、自身が思う自己評価の容貌から自尊感情に対して最も強い正のパスが示された($\beta=.42, p<.001$) (Figure1)。続いて、他者に映る自己評価の社会性、振る舞い、学業の順に自尊感情に対して正のパスが認められた(社会性 $\beta=.20, p<.01$; 振る舞い $\beta=.17, p<.05$; 学業 $\beta=.15, p<.05$) (Figure1)。

自身が思う自己評価の中で容貌が強い影響を与えることは、眞榮城(2000)の結果と同様であった。これについて、堤ら(1990)や眞榮城(2000)は、児童期後期が第二次性徴による身体的変化の大きい時期であることをその要因としてあげている。こうした変化は、人の目に触れない内面(精通・月経、等)からだけでなく、人の目に見える外見(骨格・ひげの発毛、等)からも明らかである。そのため、この時期の児童は、他者からの指摘を

受け、自身の身体に対する興味関心を高めるとされている（眞榮城,2000）。こうした時期に、他者と比べて生育の遅い、または、早い自身を認識することは、焦りや劣等感となり自尊感情の低下を招くことが予想された。また、この時期は、他者、特に異性の目を意識し始めるころである。そのため、子どもたちは多かれ少なかれ、自分の容姿・体型を気にするようになる（仁田, 1999）。このような異性に好かれたいという思いが背景となり、容姿や体型の美醜で心を強く悩ませることが自尊感情に影響を与えるものと考えられる。

次に、他者に映る自己評価では、運動を除く、社会性、振る舞い、学業のすべてが自尊感情に影響を与えていた。これらは、“誰とでも仲良くする子”、“礼儀正しく振舞える子”、“よい成績を取る子”という様に、学校や家庭など、児童が日々の生活の中で求められる姿と密接に関連するものである。こうした領域において、他者から容認され、支持されると認識することは、他者の期待に適っている自身への自負となる。そして、このことが自尊感情の形成を促すことが示唆された。

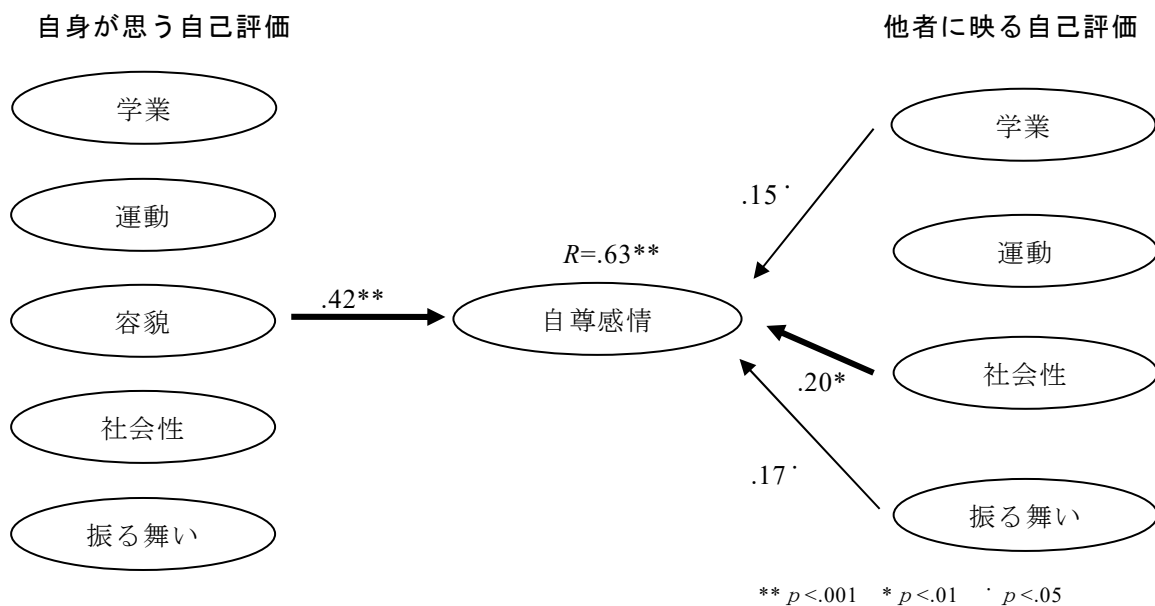


Figure 1. 自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価と自尊感情の重回帰分析

また、自尊感情を決定する2つの要因という点からは、自身の思う自己評価よりも他者に映る自己評価が、多様な領域から自尊感情に影響を与えていることが示された。すなわち、児童が自分自身で自身の能力や適性を認めていることよりも、他者からそれらを認められていると感じていることのほうが、自身に満足したり、自身を受け入れることにつながるということである。その理由としては、以下の2点があげられる。まず1つ目は、日本人が他者の目に敏感であり、かつ、他者の評価を重視していることである。このことは、自尊感情<自信と自己受容>と他者に映る自己評価<他者のまなざし>の関連を検討し

た梶田（1980）において、女子の自尊感情の急激な低下と他者に映る自己を強く意識する傾向との間に関連のあることからも見取れる。傳田(2005) は、欧米との比較において、日本の児童に抑うつ傾向の高いことを指摘している。今回の結果より、こうした背景には、自尊感情が他者の評価を基盤に形成されていること、そのために、その時々で異なる他者の反応を受けて自尊感情が揺るぎやすいものになっていることが予想された。加えて、2つ目の要因としては、仁田（1999）が“子どもの自身を受容する感覚を育てるには、他者との関係の中で自分がどのように受け止められてきたかということに深く関連する”と指摘しているように、この時期の児童が他者に受け入れられることを通して、自身を受け入れられるようになるという発達段階にいたることが考えられる。

総合考察

以上、本研究は、児童期後期（小学校4年生～6年生）を対象に、児童の自己認識を自身が思う自己評価、他者に映る自己評価（自身に対する認知的評価）、自尊感情（自身に対する感情的評価）の3つに分けて捉え、それらの発達的变化を明らかにした。また、自尊感情の決定要因として自身が思う自己評価と他者に映る自己評価を想定し、それらが自尊感情に与える影響を検討した。その結果、認知的評価である自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価には発達段階による違いは見られなかったものの、感情的評価である自尊感情には、4年生と比較し、6年生で低下が見られた。また、自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価が自尊感情に与える影響については、自身が思う自己評価よりも他者に映る自己評価において、多領域から自尊感情に対する正のパスが認められた。

今後の課題としては、今回、自尊感情の決定要因として自身が思う自己評価及び他者に映る自己評価という2つの側面を取り上げたが、その内容は、自身の外見や能力に対する認知的評価が中心であった。しかしながら、“思いやりがある”や“優しい”といった自身の内面に対する認知的評価も自尊感情の形成に影響を与えていることが考えられる。そのため、これら他の要因も含めた検討が必要である。また、自尊感情が傷つくことで引き起こされる抑うつについては、今回測定していないため、今後、これを含めたうえでの実証的検討を行うことが求められる。また、自身が思う自己評価及び自尊感情と抑うつに関連については検討がなされている（村田ら、1991）が、今回、自尊感情に多くの領域で影響を与えていた他者に映る自己評価と抑うつに関連については、未だ見当の余地があり、今後の課題と思われる。

謝辞

本研究を行うにあたり、多くの方々にご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。調査の実施に際し、ご快諾くださいました校長先生、教頭先生ならびに各学級担任の先生方、また、児童の皆さんに深く感謝いたします。

文献

- 傳田健三.2005.うつの時代に生きる子どもたち一人とかかわることをめぐる問題ー。「現代のエスプリ」別冊 うつの時代と子どもたち,150-161,至文堂.
- 榎本博明.1998.「自己」の心理学 自分探しの誘い.サイエンス社.
- Harter,S. 1985. Manual for the self-Perception Profile for Children. Unpublished manuscript, University of Denver.
- 梶田叡一.1980.「自己認知の心理学 第2版」.東京大学出版会.
- 柏木恵子.1983.「子どもの「自己」の発達」.東京出版会.
- 眞榮城和美.2000.児童・思春期における自己評価の構造.応用社会学研究（東京国際大学大学院社会学研究科）,10,63-82.
- 眞榮城和美.2005.自己評価に関する発達心理学的研究ー児童期から青年期までの検討ー.風間書房.
- 松本真理子.2005.うつの時代に生きる子どもたち一人とかかわることをめぐる問題ー。「現代のエスプリ」別冊 うつの時代と子どもたち,37-51,至文堂.
- 仁田ハナコ.1999.容貌・体型にコンプレックスをもっている.児童心理, 53 (14), 1399-1401.
- 齋藤誠一.2004.「思春期」という時期ー難しい年頃を知るー.児童心理, 58 (16), 1470-1475.
- 外山美樹・桜井茂男.2000.児童と成人におけるポジティブ・イリュージョン.筑波大学心理学研究,22,191-196.
- 村田豊久・堤龍喜・皿田洋子・中庭洋一・井上登生・吉永一彦.1991.児童思春期における自己認識の発達と抑うつ傾向との関連について.厚生省 児童・思春期精神障害の成因及び治療に関する研究.
- Tanaka,M., Wada,M., & Kojima,M.2006.A study of Japanese version of the scale for the self-cognition in childhood and early adolescence.東北大学大学院教育学研究科研究年報,54 (1) ,315-337.
- 堤龍喜・皿田洋子・中庭洋一・高尾岳久・吉永一彦. 1990. 子どもたちの自己認識の発達ーわたしはどんな子？からみた特徴ー.安田生命社会事業団研究助成論文集,26 (2) ,69-78.

APPENDIX

資料 1 自身が思う自己評価尺度/自尊感情尺度

資料 2 他者に映る自己評価尺度

資料1

1. 学校の勉強はうまくいっている
と思っている

とてもそう思う
すこしそう思う

学校の勉強についていけなくなると
のではと、心配だ

とてもそう思う
すこしそう思う

2. 友達をつくるのはむずかしい

とてもそう思う
すこしそう思う

すぐ友達をつくることができる

とてもそう思う
すこしそう思う

3. スポーツは何でもうまくできる

とてもそう思う
すこしそう思う

スポーツはあまり
うまくできそうにない

とてもそう思う
すこしそう思う

4. 自分のスタイルに満足している

とてもそう思う
すこしそう思う

自分のスタイルに不満を持っている

とてもそう思う
すこしそう思う

5. 自分を不幸だと思っている

とてもそう思う
すこしそう思う

自分にかなり満足している

とてもそう思う
すこしそう思う

6. 友達はたくさんいる

とてもそう思う
すこしそう思う

友達はあまりいない

とてもそう思う
すこしそう思う

7. スポーツをもっとうまくなりたいと
思っている

とてもそう思う
すこしそう思う

スポーツは、充分うまいと
思っている

とてもそう思う
すこしそう思う

8. 自分の身長や体重に
満足している

とてもそう思う
すこしそう思う

自分の身長や体重がちがって
いたらと思っている

とてもそう思う
すこしそう思う

9. 正しい行いを、いつもしている

とてもそう思う
すこしそう思う

あまり正しい行いはしていない

とてもそう思う
すこしそう思う

10. 毎日の生活はこれでは
いけないと思う

とてもそう思う
すこしそう思う

毎日の生活に充分満足
している

とてもそう思う
すこしそう思う

11. 宿題をするのに時間がかかる

とてもそう思う
すこしそう思う

すぐに宿題を上げることができる

とてもそう思う
すこしそう思う

12. これまでしたことのないスポーツでも
うまくやれると思う

とてもそう思う
すこしそう思う

これまでしたことのないスポーツは
うまくできないのではと心配している

とてもそう思う
すこしそう思う

13. 自分の体つきがもつちがって
いたらと思う

とてもそう思う
すこしそう思う

自分の体つきが今のままで
よいと思っている

とてもそう思う
すこしそう思う

21. 自身の顔や髪型がもつ ちがっていただけらと思う	自身の顔や髪型は、今のままで いいと思っっている
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
22. してはいけないと分っている ことを、してしま	してはいけないと分っている ことは、けっしてしない
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
23. 今のままでとても幸せと思っっている	もっと変わりたいと思っっている
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
24. 学校で質問された時に 答に困ってしま	学校で質問された時に うまく答えられる
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
25. とても行儀がよい	行儀よくすることができない
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
26. 自身のやり方にあまり 満足してない	自身のやり方は、素敵だ と思っっている
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う

これで質問はおしまいです。

14. 人間として自身に満足して いる	人間として自身自身に満足して いない
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
15. 勉強したことをすぐに忘れてしま	勉強したことをずっと思っ 覚えている
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
16. いつもほかの子よりも 一緒に行動している	ほとんどひとりで 行動している
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
17. スポーツが同級生より じょうずにできる	スポーツが同級生のようには じょうずにできないと思っ ている
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
18. 自身の容貌（どんな風にも 見えるか）が ちがっていただけらと思	今の自身の容貌に 満足している
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
19. 自分のような子どもが 好きだ	他の子どものように なりたいたと思っ ている
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う
20. 教室での勉強が大変 うまくてきている	教室での勉強が うまくていけない
<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う	<input type="checkbox"/> とてもそう思う すこし思う

資料 2

*お母さんは、あなたのことを どのように思っていますか？

*お母さんは、あなたを何でうまくできている子だと思っていますか？

1. スポーツは何でもうまくできている子だと思っています スポーツはあまりうまくできそうにない子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

2. 学校の勉強はうまくいっている子だと思っています 学校の勉強についていけない子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

3. 友達をつくるのはむずかしい子だと思っています すぐ友達をつくることのできる子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

4. 正しい行いを、いつもしている子だと思っています あまり正しい行いはしていない子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

5. 宿題をするのに時間がかかる子だと思っています すぐに宿題を仕上げることができる子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

6. 友達がたくさんいる子だと思っています 友達はあまりいない子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

7. スポーツをもっとうまくなりたい子だと思っています スポーツは、充分うまい子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

8. 勉強したことを、すぐに忘れてしまう子だと思っています ずっと覚えていてる子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

9. いつもほかの子よりも一緒に行動している子だと思っています ほとんどひとりで行動している子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

10. してはいけないと分っていることを、してはいけないと分っていない子だと思っています けっしてしない子だと思っています

とてもそう思っている とてもそう思っている
すこしそう思っている すこしそう思っている

*お母さんは、あなたのことを どのように思っていますか？

11. 教室での勉強が次第々々進んでいく子供だと思われている □ □
 教室での勉強がうまくなり進んでいく子供だと思われている □ □
-
12. これまでしたことのないスポーツでもうまくなり進んでいく子供だと思われている □ □
 これまでしたことのないスポーツはうまくなり進んでいく子供だと思われている □ □
-
13. とても行儀が良い子供だと思われている □ □
 行儀よくすることができない子供だと思われている □ □
-
14. 学校で質問された時に答えてくれる子供だと思われている □ □
 学校で質問された時にうまく答えられる子供だと思われている □ □
-
15. スポーツが同級生より上手にできる子供だと思われている □ □
 スポーツが同級生のように上手にできない子供だと思われている □ □

これで質問はおしまいです。